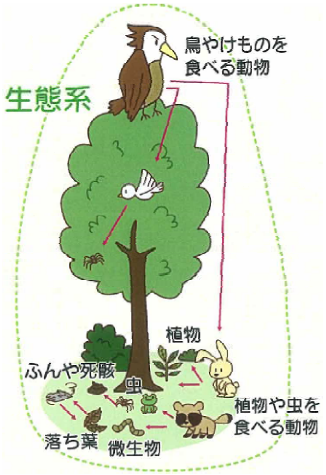
生物多様性とは

生物多様性とは、「いろいろな種類やタイプ(※)の生きものがいる」ということです。

そして生きものたちは、山や川、海など自分に合った様々な環境（生態系）で暮らしています。私たちはふつう、それを「自然」と呼んでいます。



自然の中で、生きものたちは、食べたり食べられたりしながらバランスを保っています。そして、自然や生きものは、私たちにたくさんの恵みをもたらし、私たちの暮らしを支えてくれています。

※タイプ：たとえば人の顔が一人ひとり異なるように、同じ種類の生きものでも、模様などの特徴が異なっていることです。

自然や生きものからの恵み

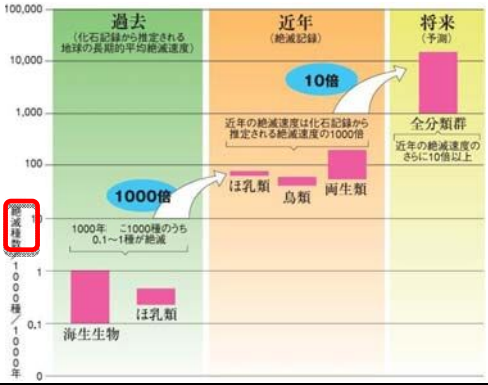
自然や生きものからの恵みは、食べ物や木材、酸素の供給、災害の防止、ハイキングや潮干狩りなどのレクリエーションの場の提供など、多岐にわたります。

このように、私たちの生活は、自然や生きものから多くの恵みを受けています。

加速する野生生物の絶滅

人間は種の絶滅速度をここ数百年でおよそ 1,000 倍に加速させています。チンパンジーやゴリラ、トラ、ホッキョクグマ、アジアゾウなど多くの哺乳類が、世界中で絶滅の危機にあります。鳥類や爬虫類、両生類、昆虫類なども、そして植物もその例外ではありません。

日本でも状況は変わりません。ニホンオオカミ、ニホンカワウソは絶滅してしまいましたし、九州ではツキノワグマが絶滅しました。今まで身近な存在であったメダカやゲンゴロウなども絶滅するおそれがあります。



福岡市で絶滅のおそれのある動物の例

クロツラヘラサギ

カブトガニ

「自然や生きもの」に思いやりを持って、暮らしていかなければなりません

自然や生きものに対する４つの危機

なぜ、自然や生きものの危機を招いたのでしょうか。その多くは人間の活動に原因があります。

第１の危機
人間活動や開発による危機

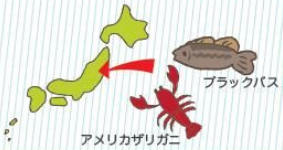
森、川、海が開発され、生きもののすみかが少なくなっています。

第２の危機
人間活動の縮小による危機

山の手入れをする人や、田でお米を作る人が少なくなり、山や田が荒れて、そこに住む生きものが減っています。

第３の危機
人間により持ち込まれた外来生物や化学物質などによる危機

その場所にいなかった生きものを人間が持ち込むことで、元々いた生きものが食べられたり、住む場所を奪われています。



第４の危機
地球温暖化による危機

地球の平均気温が1.5度から2.5度上昇することで、動植物の20%から30%が絶滅のリスクが高くなるといわれています。

自然や生きもののために私たちができること

100年後も豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐ未来都市「ふくおか」を目指すため、私たち一人ひとりが行動を開始しなければなりません。

アクション1を通じて、自然とふれあい、私たちと生きもののつながりを意識することが、私たちにできる第一歩です。

そして**アクション2**、**アクション3**につなげていきましょう。

アクション1 自然や生きものにふれよう

- 自然と遊ぼう

- 身近な生きものをみてみよう

- 動物園、水族館、植物園、博物館へ行こう

- 水や空気や食べ物がどこから生まれたのか考えてみよう

アクション2 自然や生きものを守ろう

- 自然を汚さないようにしよう

- 旬のもの・地のものを選んで食べよう

- ペットはずっと大切に最後まで飼おう

- 自然保護活動に参加しよう

- 地球温暖化を防止して生きものが暮らせる環境を保とう

- 自然や生きものに配慮した商品やサービスを選ぼう

アクション3 自然や生きもののたいせつさをつたえよう

- 自然や生きものを守る仲間を応援しよう
- 自然と暮らす人々とつながろう
- 学校で生きものについて語る機会を増やそう

- 生きもののつながりを脅かすものを語ろう
- 家族と自然のめぐみや大切さを語ろう